一般推薦入学試験　小論文　後期日程　解答例

問１　傍線①「家族がいるかいないかで、生活の質は大きく異なります」について、筆者の考えを文中の表現を活用して二〇〇字以内で説明してください。

【解答例】

かつての日本は皆婚社会ともよばれ、人びとの基本的な生活保障を家族が提供してきた。しかし、家族のあり方や人びとの生き方が変化している現在の社会状況においては、家族をもたない者も増えて、年老いたとき身の回りの世話をしてくれる家族の不在が孤独死へと直結する。このように、日本の生活保障制度が家族を基盤に形成されてきたことの結果、家族がいないことで生活の質が低下することにつながっているのである。（194 字）

問２　傍線②「実際に会ったり、触れたりすることができる人は限られていますが、見えない人にも支えられ、また支える関係があります」について、著書の考えを文中の表現を活用して説明した上で、自分の体験を踏まえたあなたの考えを、合わせて六〇〇字以内で記述してください。

【解答例】

これまでは、家族があることが前提とされ、お互いさまの関係を血縁というつながりのもとで制度化してきた。しかし、たとえ家族がいなくとも、生活の支えがゼロとならないように家族にかわるお互いさまの関係を形成していかなくてはならない。そのお互いさまの関係は、生活する場におけるコミュニティなどの直接的なものだけでなく、見えない人にも支えられ、また支える関係もあると筆者は述べている。

筆者が述べているように、知り合いでない人、会ったこともない人に支えられることで豊かな暮らしにつながることがあると私も考える。

私は小学生の時に地域の子ども会に参加し、イベントや活動を行っていた。その活動を運営するために、保護者が中心になり運営費用を捻出するバザーを開催した。家庭で不要になっている物を提供して欲しいとポスター等で呼びかけたところ、使っていない贈答品等を多数提供していただいた。それらの品物をバザーで販売したところ、地域の方々が購入してくれたことで、子ども会活動費用を得ることができた。品物を提供してくれた方、購入してくれた方いずれも私たちは見ず知らずの方たちだが、そのような人の好意に支えられて、私たちの子ども会活動が豊かなものになったのだと思う。高校生の私はボランティア活動で子ども食堂の手伝いをしており、今度は支える側にもなっている。このような、支えられ、支える関係を社会に拡げていくことが必要だと考える。（598 字）